

「知」の集積と活用の場・産学官連携セミナー

(ウェルビーイング産業研究開発プラットフォームによる同時開催事業)

国際水準GAPの推進について

"Field for Knowledge Integration and Innovation"

Industry-Academia-Government Collaboration Seminar

(Sponsored by Open Innovation Network for Food and Health Longevity)

Promotion of International Level GAP

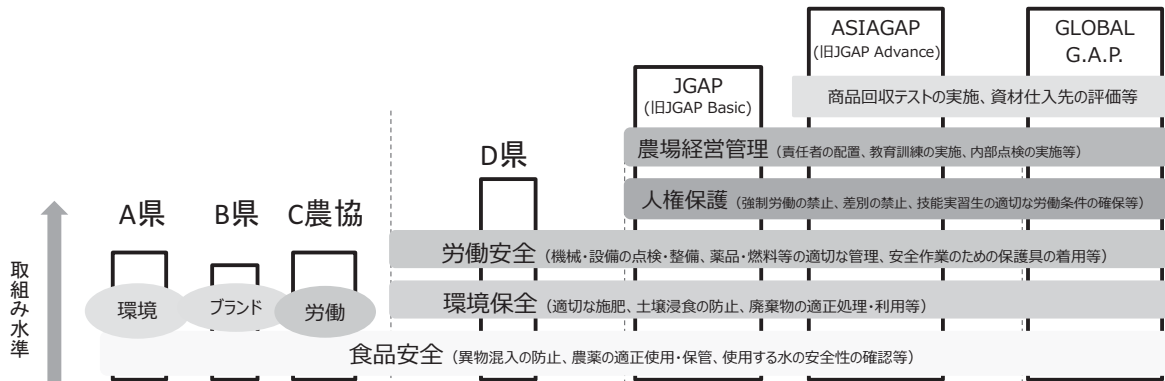
講 師

Lecturer

**栗原 真 (農林水産省 生産局 農業環境対策課
GAP推進グループ長・農業環境情報分析官)**

Makoto Kurihara (Senior Policy Adviser for Sustainable Agriculture
Sustainable Agriculture Division, Agricultural
Production Bureau Ministry of Agriculture,
Forestry and Fisheries, Government of Japan)

国内におけるさまざまなGAP(各GAPの構成、特徴)



	「GAPをする」		「GAP認証をとる」		
		農水省がガイドライン準拠GAP十都道府県確認(オリパラ対応)	JGAP (IJJGAP Basic)	ASIAGAP (IJJGAP Advance)	GLOBALG.A.P.
認証の仕組み	×	△(ISO準拠でない)	○	○	○
オリパラ調達基準	×	○	○	○	○
GFSI承認	×	×	×	△(申請予定)	○(青果物)
国内販売先の取得要請	×	×	△(一部大手小売り)	△(一部大手小売り)	△(一部大手小売り)
海外マーケットの現状	×	×	△(韓国、台湾で取得)	△(台湾、香港、東南アジアへ普及推進)	△(特に欧州で普及)

※GFSI(Global Food Safety Initiative)とはグローバルな食品事業者(世界70カ国、約400社)が加入するTCGF(The Consumer Goods Forum)の下部組織。食品安全を推進。

(参考) 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会における食材調達基準(農産)

持続可能性に配慮した農産物の調達基準(概要)

《農産物》

<要件>

- ① 食材の安全を確保するため、農産物の生産に当たり、日本の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。
- ② 周辺環境や生態系と調和のとれた農業生産活動を確保するため、農産物の生産に当たり、日本の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。
- ③ 作業者の労働安全を確保するため、農産物の生産に当たり、日本の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。

(要件①～③を満たすことを示す方法)

ア JGAP Advance、
GLOBALG.A.P.
組織委員会が認める認証
スキーム

イ「農業生産工程管理(GAP)の
共通基盤に関するガイドライン」
に準拠したGAPに基づき生
産され、都道府県等公的機関
による第三者の確認

<要件を満たした上で推奨される事項>

・有機農業により生産された農産物

・障がい者が主体的に携わっ
て生産された農産物

・世界農業遺産や日本農業遺産など国際機
関や各国政府により認定された伝統的な農
業を営む地域で生産された農産物

(海外産で、上記要件の①～③の確認が困難な場合)

組織委員会が認める持続可能性に資する取組に基づき生産され、トレーサビリティが確保されているものを優先

<国産を優先的に選択>

(国内農業の振興とそれを通じた農村の多面的な
機能の発揮等への貢献を考慮)

(生鮮食品)

加工
(加工食品)

主要な原材料である農産物が本
基準を満たすものを、可能な限り
優先的に調達

サプライヤー(ケータリング事業者等)

出典:公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会作成資料